

9 材料調達例

子どもたち自身が材料を探したり、使い道を試行錯誤したりすることは大切なことです。このようなことを踏まえた上で、材料を入手しましょう。

地域の特徴

水産加工が盛んな地域である。そのため、加工品を梱包するための発泡スチロール工場が点在している。規格に合わなかった、様々な形状の発泡スチロールが廃材として再利用されている。

学校組織が行うこと

子どもの実態や付けたい力に基づいて、指導計画を作成する。子どもが準備することが適切な材料と、学校が準備した方が適切な材料とを吟味する。参観会やお便りなどを通して家庭の協力を得る。

特徴のある発泡スチロールが必要である場合、発泡スチロール工場に連絡を取り、廃材を入手することが可能であるかを確認する。また、校内の保管場所を検討し調整確保する。

可能であれば、日程を調整し、工場の都合に合わせて、受け取りに行く。

子どもの活動の様子や作品をビデオやカメラで撮影し、評価に生かすとともに、保護者や発泡スチロール工場へのお礼の手紙に写真を添える。

実践後に行うこと

発泡スチロール工場の都合のよい日時にお礼に伺う。

子どもの手紙や活動や作品の写真を添えて、資源を有効に活用したことを伝える。

作品は、児童・生徒が自宅に持ち帰る。不要な発泡スチロールは、資源としてリサイクルされるように分別し、資源回収などに出す。（工場などに聞いておくことも必要です。）

保管・活動・製作した場所を子どもとともに、美化に努め、次の活動が行いやすいようにする。

あらかじめ、地域や家庭に廃材が入手可能な工場や店舗を調査し、学校でリストにしておきましょう。

また、リストにあっても相手先の都合を十分に考慮して、学校との信頼関係が崩れないように配慮しましょう。

その題材や年度だけで終わってしまわないように、工場とのつながりや環境の保持に配慮しましょう。

また、子どもの写真や作品などを外部に出す場合には、個人情報の保護にも配慮しましょう。

小学校題材例

例 造形遊びにおいて、発泡スチロールを材料にして発想し、組み合わせたり、形を変えたりしてつくる。（第3学年及び第4学年）

例 造形遊びにおいて、室内空間の様子を考えながら、大きな発泡スチロールを切ったり組み立てたりしてつくる。（第5学年及び第6学年）

例 工作に表す活動において、発泡スチロールを材料にして、自分が住んでみたい夢の島をつくる。（第5学年及び第6学年）

中学校題材例

例 「立体の共同制作」において、学校行事をテーマとして主題をもち、発泡スチロールを用いて大きな彫刻をつくる。（第2学年及び第3学年）